

SPring-8運転・利用状況

財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成22年9～12月の運転・利用実績

SPring-8は9月30日から11月2日までマルチバンチおよびセベラルバンチ運転で第5サイクルの運転を行い、11月8日から12月3日までセベラルバンチ運転で第6サイクルの運転を実施した。第5～6サイクルでは安全インターロック動作による停止等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第5サイクルは約0.6%、第6サイクルは約1.7%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第5サイクルは合計217件、利用研究者は1,631名で、専用施設利用研究の実験数は合計124件、利用研究者は918名であった。第6サイクルは合計249件、利用研究者は1,329名で、専用施設利用研究の実験数は合計140件、利用研究者は678名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第5サイクル（9/30（木）～11/2（火））

第6サイクル（11/8（月）～12/3（金））

(2) 運転時間の内訳

第5サイクル

運転時間総計 約766時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約287時間

②放射光利用運転時間 約476時間

③故障等によるdown time 約3時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）
に対するdown timeの割合 約0.6%

第6サイクル

運転時間総計 約598時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約94時間

②放射光利用運転時間 約495時間

③故障等によるdown time 約8.5時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）

に対するdown timeの割合 約1.7%

(3) 運転スペック等

第5サイクル（マルチバンチおよびセベラルバンチ運転）

・160 bunch train×12（マルチバンチ）

・1/14 filling+12 bunches

・203 bunches

第6サイクル（セベラルバンチ運転）

・203 bunches

・11 bunch train×29

・入射は電流値優先モード（2～3分毎（マルチバンチ時）もしくは20～40秒毎（セベラルバンチ時））のTop-Upモードで実施。

・蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主なdown timeの原因

・冷却装置異常によるアポート

・安全インターロック動作によるアポート

・XYスリット冷却水流量低によるアポート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第5サイクル（10/7（木）～11/2（火））

第6サイクル（11/9（火）～12/3（金））

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 17本

理研ビームライン 8本

加速器診断ビームライン 2本

第5サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 217件

共同利用研究者数 1,631名

専用施設利用研究実験数 124件

専用施設利用研究者数 918名

第6サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 249件

共同利用研究者数	1,329名
専用施設利用研究実験数	140件
専用施設利用研究者数	678名

◎平成22年12月～平成23年1月の運転・利用実績

SPring-8は12月6日から12月22日までセベラルバンチ運転で第7サイクルの運転を実施した。

12月23日から1月13日まで冬期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行った。

1月14日から2月23日までセベラルバンチ運転で第8サイクルを実施する。第7サイクル及び第8サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

- (1) 2月24日から3月31日まで年度末点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。
- (2) 年度末点検調整期間後の運転条件については決定しだいユーザーにSPring-8のWWW等で報告する。